（三十日夕刊）

磐城新聞

休刊　大祭日第一第三日曜
定價｛壹部二錢、壹ケ月五十錢、郵稅十錢
廣告料二行五十錢（指定廿錢增）
發行兼編輯印刷人　遠沼昭輔
發行所　福島縣平町田町拾六　磐城新聞社　電話五六五番

北海道秋風抄（二）

福田將夫

運送店と、諸國商人御旅館との二つの看板が眼につく、少し三年前の村とは變化してゐる。大樹の切株ばかりで變に歪んだ道半丁も來たか、小さな峠に出る、丁度東海道を大名行列の歩んでゐるやうな想ひが湧くゆるやかな街道が遠くに續いてゐる。

右側が岩石で、ちよろ〳〵と清水が流れてゐる、油繪にでも描く赤い岩の色が、夕陽に反映して一層の美をましてゐる。

やまべ釣る人の影が眞下に小さく見える、此の街路の切れ目に掛茶屋がある。此の茶屋で訊くともう一町程だといふ、これからが險巷ばかりで、歩むのに大分骨を折らせた。

飯場小屋に着いたのが五時、あたりに夕靄が幕をひきはじめた。

小屋の前に、荒削の板、墨太に道廳派出治水工區飯場と書いてある。

「御免なさい」と外から聲を掛けた。

中から熊の皮をチヨツキにして着て腕の白いホツタイをした拾三四程の男が、戶を半分開けて「何だ——」と底力のこもつた聲でどなる。「一寸お尋ね致します星野政美君は居りませうか？」

「あゝ今、監督に行つてゐますがもう直に歸ることでせう」思つたより溫順な男である「さあ、〳〵、むさ苦しい荒小屋ですが總て、應待振りも色々と親切にして呉れる。與作を大きな爐にして、皆んなで溫るやう「ジヤキの古いストーブがある。

彼の男が大きな炭をくべ乍ら、いろんな話がはづむ。

北石狩平原は未開の廣漠した平原と晝尙暗い大森林であるが。聽て五年も經ては有望な水田になると云ふ計畫下に、道廳直營の治水工事が天塩川とチユン別川に結ぶ幅何拾間もある大溝渠の溝をエッキスカーで堀つてゐるのださうである……。

此の部落は六拾戶足らずで、總て大半は貧弱な柾小屋が大半數を占めてゐる。

此の飯場も柾小屋で荒削の丸太で二重にも三重にも厚く圍繞して、隙間のないやうに作成してある。

北海道の建物……總て家の外觀內觀と四方に、壁とか板などを厚くして作るのである。冬期に於ける、內部の暖氣を外部にもれないやうにする防策である、そして段々と雪の降り始める拾月の中旬頃に、冬圍をする、藁をもつて家の周圍に祁寒と吹雪を防ぐ爲である……。北海道によらず、北國の建物は私の述べたやうなものであらう。

祁寒に對抗するに先つ、第一に暖爐的設備の完全と衣服問題が根本である。

この男と四拾分程も語つてゐたが、その時、裏の秋楡林の落葉を踏んで誰れやら來るらしい跫音がきこえて來た。札幌農科大學の校歌を鼻唄でやつてゐる。

「來ましたよ」

小屋の前で跫音がピタリ止まると、熊笹に小便をしてゐるらしい氣配がする。

ギンと戶があくと破れた服を着た男が入つて來た。

男は星野らしいが、餘り學生時代の彼とは一變してゐるので解らないが、その面影が偲ばれる。

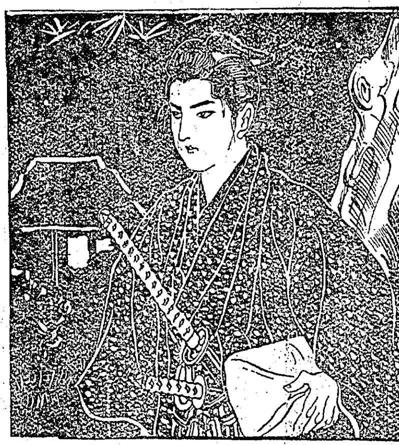
❁明日の暦❁
新暦十二月一日
舊暦十一月一日

▲一白の人　目上の者が感情をそこなひ易き日▲二黑の人　姑息手段を採らず飽まで働き續けるべし▲三碧の人　思ひたふければ身をこがす位高きもおご切れ▲四綠の人　打てば打たるゝ世の習ひ低きに居るが安全▲五黃の人　多少の支障はあれどたゆますはげめば吉に向ふ▲六白の人　學業始むるによき日但急ぐことは愼むべし▲七赤の人　勞苦を積みしむくひの我が身に廻り來たる吉日▲八白の人　流言浮說に動かさるゝ日新らしき學は光も凶▲九紫の人　四圍の感情を損せざれば次第に吉運と成る

講談　幕末奇傑　高山彥九郎

(10)　中西洋々作　布施長春畫

佐吉一家（三）



伊勢崎といふ、高山家のある細谷村から、四里近く離れた所なのですが、前にも云つたように、

彥九郞は、その地の師の許に素讀の敎へをうけに通つてゐたのです、その遠いしかも夜道を、彼は、一夜もかゝすことなく通つて來ました、しかも、その日は、恰度、御禮日、さゝつてしへの謝禮——つまり、今日で云ふ月謝を納める日に當つてゐたのです。敎へを受けるものは、彥九郞のような、鄕士のせがればかりでなく、中には伊勢崎の士分の子などもあつて、一日でも遲れて納めることは、彼らにとつて堪えがたいことだつたのです。

殊に、學問の爲には、家業をさへ顧みぬといふ彥九郞でした。亡父の法要を滯りなくすました今、むしろ神聖を破壞するような酒席に殘ることを快しとしませんでした。

兄の手から、必要な金額を貰ひうけ、賑やかな座敷の騷ぎをあとにして、彼はしの家への道を急ぎました……。

黃昏の頃の野の道——春とはいつても、まだ三月の宵の空氣は肌に冷くありました。何か、から、雄大な詩吟を、口から出してみたいような衝動を感じ乍ら、しかも、彼はそれをしませんでした。貧と、病苦に惱む佐吉一家の事が、根强く頭に巣喰うてゐたからです——今朝、甚作が女房おとせは、十三になつたばかりの小娘が三日も食を取らず病める老人の藥代にもと、袋を貼つて、か細い乍ら、その日〳〵の父の命を保たせてゐるといつた、が、それが、[illegible]とした、この少女は、何と尊い心のもち主だらう。

彥九郞は、たね間ない。兄傳藏との醜いいさかひにその身をさいなやんでおねばならない自分と較べて今更に、羞かしくなつて來ました。如何程、口で大義をとなへ尊王を說いたとてその、直ちに何にならう、如何程、古賢の書物の上に交り、德川の、上をないがしうにした振舞に腹を立てたとてそれが直ちに何になるだらう。自分の行ひは、今の自分の行ひはまるで小人も羞づるような淺ましい骨肉爭鬪ではないか。

から考へて來ると、ひし〳〵と、せまり來る自責の念に、彼は、我と我身をしひたげるのでした。おとせの云ふところに依れば、佐吉の家は百々の村だといふ話し、いつか、自分の足が、細谷から百々の村に入つてゐることに氣づきました。

そこは、恰度、伊勢崎への中途にあたるのです。

百々村の地藏堂から、四つ目の田の畔道を左に曲つて……おとせに敎へられた通り、彼は、佐吉の家への道にそれで行きました。

敎へられた佐吉の家は、すぐに分りました同じ藁屋根の家でも、母屋と隱居所と、室數たけでも二十を數へる、豪農高山の家とは、これは雲泥の違ひのみすぼらしさです。もう、とつぷりと日の暮れた星明りばかりの夜の目にも、その半ば傾きかけたような家の外形は、餘りに見苦しく目にうつりました。何となく、胸をうたれるような思ひに驅られ乍ら、彥九郞は、僅かな戶の破れから屋內をうかがいま見ました。

その內は、外にもましたみじめさです、むさくるしい一室ぎりの居間に、垢じみた布團をのべてその上に病みほうけた六十路あまりの老人……それが、佐吉であると知りました。……が十二三の少女の甲斐〳〵しい介抱に身を委ねて、貧しい粥の箸を添へてもらつてゐるのです。

彥九郞は、暗膽とした氣持にとざされて尙ひ屋內の樣子に目をくばりました。

夜間診療

胃腸
內科　十二指腸蟲病
專門
內科部

淋病
婦人病
皮膚病
專門
外科部

松村胃腸科醫院
（平商町電話一〇七番）

毎度御引立にあづかり御禮申上ます
奥山の廉賣御賣出しが參りました。
安く、味のよい、台所には是非。
奥樣方のお嬉び。
◎廿八日より向五日間
十二月二日迄
平町長橋奥山醬油出張販賣店
四倉町本町　元。金芳跡

平町田町
高久病院
電話五〇三番
醫學士　高久忠
新潟醫學士　赤羽清
藥劑士　佐竹菊雄
內科小兒科
外科花柳病科、
耳鼻咽喉科、
レントゲン科

貸地廣告

平町郡役所より稅務署附近の新開地に五百餘坪の貸地があります、然かも完全な土盛でありますから流失其の他の憂ひ絕對になく商店、諸工場並に高級の住宅地として最もの適地を極ぐ安値にお貸しいたします

御希望の方は電話なり葉書なれば社員がお伺ひして親しく御相談に應じます

小名濱商事株式會社
平出張所
電話　六〇三番　五四一番

共濟病院　各科專門

耳鼻咽喉科　醫學士　井上俊次郞　醫學博士　渡部貞助
產婦人科　醫學博士　松枝茂
外科　醫學士　氏家憲次　醫學博士　桂重介
內科　醫學博士　難波睦　醫學博士　中西林藏
×光線　醫學博士　難波睦　技師　工藤慶造
衞生試驗所　醫學博士　中西林藏　技師　小熊英夫
藥局　藥劑師　吉本孝平
本院事務法制囑託　法學士　岡番
本院主管　賀澤忠治

一衞生試驗所
一病氣相談所
一救療所
（共濟病院內）
共濟病院は皆さんの病院であります御氣付のことは御注意を願へます

磐城　共濟病院　平町電話六四一番
◎看護婦見習募集

レコードハ
此のマーク！を
HIS MASTER'S VOICE
TRADE MARK REGISTERED
店員募集
肉聲のビクターレコード
販賣店　會田時計店
平町四丁目（電話三六三番）

婦人病には美神丸を

こんな徴候の人は
一時も早く治療すべし

●血帶下赤帶下コシケ多き人
●下腹痛く節張り又はつる人
●子宮冷込、腰脚の冷え又は痺れる人
●月經不順月經時に腹の痛む人
●神經衰弱ヒステリーの人
●月經時の前後に白粘つたこしけが下る人
●子宮淋毒尿意頻の人
●子宮痒く糜爛出血する人
●局部惡臭かゆき人
●逆上、頭痛、耳鳴、眩暈する人
●肩が凝又は背が痛む人
●流產、早生する人

美神丸の主治效能
白帶下　子宮內膜炎　子宮淋病（消渴）子宮出血　子宮痙痒　子宮糜爛　月經不順　陰門惡臭　子宮下り及ゆがみ　肉腫癌毒に起因する不姙症等　不感症（愉よさを知らぬ病）

一日藥價僅か五錢の
自宅療法

救世の婦人藥
美神丸は（安價、簡便、卓効、秘密の四つ揃つた理想藥です）

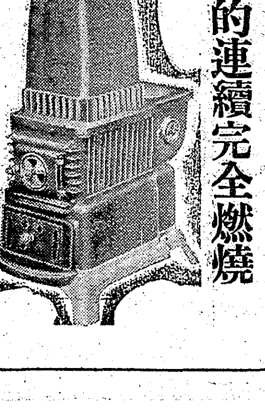
定價表

一週分	四〇
二週分	八〇
五週分	一、八〇
十週分	三、五〇

地方代理店
平町五丁目角
山野邊藥局

一町一村に一特約店を募集す
速刻希望者は申込あれ

煖爐界之征服者
ネンシヨウストーブ
經濟的連續完全燃燒
消費節約
火防衞生
優美堅牢



簡便を欲せらるゝ御方は是非御試し下さい
御請求次第カタログ進呈
㊇
釜屋商店
電話九一三九番

委員會の修正通り 戸數割賦課決定

町議當選無效は行政訴訟

きのふの平町會

平町戸數割賦課額決定の爲の續本會議は二十九日午後二時二十分から同役場會議室で開會、出席議員十七名、直に本議に入り青沼委員長から賦課人員四千六百九十三戸中增額したるもの百四十二人、金額二百八十九圓二十錢、減額したるもの百九十五人二百八十九圓二十錢

金額異動 人員計三百三十七名と報告ありこれに對し二三議員から委員會の決定について一二の質問あつて委員會修正案通り可決し續いて磐城炭礦株式會社長淺野總一郎氏から仙臺鑛山監督局に出願にかゝる平町外三村地内の石炭採掘願に對する諸問案の審議に入つたが事重大なので午後三時一先づ休議再會町長提出通り公益を害するものと認むと採掘に反對答申をなす事に決定、續いて坂本隆藏緑川喜三郎兩町議が過般の縣參事會に於て當選無效と決定した事に對しさきに平町會はこれを有效の決議をなしてゐた關係上

參事會の 決定に對し町會として如何なる態度を取るべきかと協議會に提出協議を進めたが千葉彦治、井上茂作、青沼鋒太郎、佐々木能者氏等は町長の名に於て行政訴訟を提出し町會の初志を達成せしむべしと主張し馬目雅治櫻井清爾氏反對して議論沸騰し結局町長の意見を問ふた所伏見町長は平町會の權威のために行政訴訟を提出し從の結末をつくべきであるとの意志が表示されたので町長の意志がそれにある以上已むを得ずとして來る四日の期限までにその手續きをとる事になつた

郡南牛馬商

組合役員決定

植田警察署管内牛馬商組合は廿八日午前十時より同署内に集合出席人員五十名定刻田口署長の訓辭講話あり組合創立について規約を審議し役員選擧は各町村より詮衡員を一名宛擧げ詮衡の結果左記役員決定し驛前若松屋に懇親會を開催し午後五時散會した

組合長長加茂友次、副組合長小沼健藏、星藤太郎會計上原淺五郎、平山信次郎、幹事上遠野龜太郎（入遠野）稻村乙苗（田人）小林與右衛門（上遠野）鯨田吉太郎（山田）小宅源太郎（植田）鷲新次郎（錦）小林金藏（勿來）鈴木源太郎（川部）古口勝五郎（泉）渡邊淺吉（渡邊）

罵倒され告訴

貸借關係が原因で

平町字大町瀨谷判說（三四）は廿九日平署に同町石川忠治（三五）を相手取り名譽毀損の告訴を提起したその理由は被告訴人と材木取引について屢々交渉中廿八日午後一時ごろ石川宅において些細のことから口論を始め被告訴人は高聲で馬鹿野郎泥棒等と罵倒したのを憤慨して告訴に及んだものである

各階級を網羅した 平町の陪審員

けふ抽籤の結果

左記廿六名當選

平町の陪審員候補者抽籤は三十日午前九時より町役場に於て執行したが當選者左記二十六名にして職業別に見るも凡ゆる階級を網羅してゐるが町會議員として抽籤に立會た國府田直良櫻井清兩氏當選したのは些さか皮肉である氏名職業別左の如し

△鎌田町小泉重藏（貸座敷業）一丁目園原新一郎（硝子器商）新川町大内吉太郎（人力車夫）南町山下庄一（金貸業）梅ヶ町椎名九麿（瓦製造業）五丁目酒井玄之次郎（桶製造業）四丁目百澤才次郎（砂糖商）鎌田町高木保次郎（荒物商）材木町鈴木要七（貸家業）播槌小路長瀬廉之（無業）白銀町深谷新吉（靴製造）長橋町奥山庄作（醬油釀造業）三丁目阿部榮造（海産物商）新川町丹野好三郎（飲食店）四丁目鈴木與一（果實業）五丁目吉野禮恭（銀行員）白銀町櫻井清（無業）二丁目里見金太郎（無業）長橋町吉村清藏（雜貨商）五丁目山部政治（パン製造業）四丁目新妻文吾（雜貨商）三丁目酒井宗助（無業）一丁目坂本隆藏（紙類商）田町滑川敏之助（周旋業）南町岡山克己（寫眞業）五丁目諸橋守次（金物商）

私の戀愛觀

城山　宮古清三

結婚問題は、われ〱の生涯中最も重大な、そして最も悩みの多い問題の一つである。幸福な結婚はその當事者達に幸福をもたらすことはいふまでもないが、それとである。しかし何といつても、現代の女性と昔の女性とを比べて見ると、結婚に關してより多くの自由が與へられたゞけでも幸福といはばならぬ。

發揮してゐる女性もあるこれが昔だつたら、たとへ才能があつたとしても、てんで頭から問題にされなかつたのである。

英國では、女性の社會的地位、乃至政治的權利は日本の女性などよりも遥かに優位にあつて、女性も男子と同樣參政權を有し、今春の總選擧には勞働黨から多くの代議士を出し、更に勞働黨内閣の閣僚の一員となつてゐる女性さへある。日本でも一般社會の進步と女性の自覺と相まつて、次第に因習的結婚が破壞されつゝある。

このやうに、世界いづれの國においても、女性が次第に自覺し、その社會的地位が漸次擴大されてゐたが女性の自覺は先づ結婚に對する自覺、因習的結婚に對する反逆から始まつてゐる然し、結婚が自由になつたのはヨーロッパにおいても極最近のことであつて即ち英國のメリーといふ女の著はした「女性の權利の擁護」といふ書物が現れてから多くの女性の自覺を促したのである。次に政治的自由の立場から女性の權利を擁護したものとしては、ジョン・シチュアート・ミルの「女の服從」といふ有名な書物がある。これは六十年程も前に發表されたものであるが、當時の保守的な英國人の間に非常な論議を捲き起した。

文學的方面に於て、始めて女性の自由を主張したものとしてはかの有名なイブセンの「人形の家」をあげることが出來る、この戲曲の主題は、いふまでもなく、一人の女性が無智な結婚から次第に自覺して、女である前に人間であることを主張して「人形の家」を捨てゝ出て行くのであるがこれは要するに男女平等の權利の主張に外ならない。

徳川時代の日本の女性の位置はどんなものであつたかといふ、それは全く男子の奴隸に外ならなかつた當時、女性の修身教科書として用ひられたものに「女大學」といふのがあるが之によると、女には何等の權利なく徹頭徹尾男子に服從しなければならない、やうに說かれてゐる、また徳川幕府の御用學者白河樂翁の書物にも女性の人格を徹底的に否定したことが說かれてゐて、その一例をいへば女は馬鹿である程賢婦であるといふやうなことさへ平氣でいはれてゐる。

然しながら、明治維新の改革と共に、外國の文物制度が取入れられ、それによつて在來の封建的思想が次第に破壞され日本の女性もいつまでも徳川時代の女大學式の結婚に滿足することが出來なくなつた。森有禮氏は明治における最も勇敢なフェミニストの一人であつて、彼は自由結婚論といふものを發表して、大いに日本の女性の立場を擁護した。また明治開化期の恩人福澤諭吉氏も充分に女性に理解を持つた一人であつていろ〱な意味において日本の女性を奴隸的立場から解放しやうと努力した。

嫁を世話するとて 仕度金を詐欺

一杯喰つた婿ごのから

平署へ告訴提起

内郷村大字白水高橋喜一は十一月中旬頃同村大字宮字中太郎佐々木酉男に對し同村不動澤高橋源吉の息女たけ（二二）を媒酌するからとて

一、金五圓は高橋息女を東京より伴へ來る汽車賃

一、金五圓は嫁仕度及品代

一、金十三圓は高橋自身が必要につき五日間借用

一、金五十錢は嫁入に就て懷中電燈買入金

一、金五十錢は祝儀用品の買入金

合計二十一圓を佐々木より受取り其後何んの音沙汰もないので高橋に嚴談すると言は嘘だつたと稱して空惚けてゐるので今卅日高橋を相手に平署に詐欺の告訴をなした

二十五尺の 高所から墜落

左官遂に絶命

久の濱町大字田網字猿内左官職鈴木芳太郎（三一）は二十九日午後四時三十分頃目下平町四丁目に建設中の平郵便局工夫作業中二十五尺の上空より足場を逸し墜落し頭部を打ち附け腦貧血を起したので南町上田醫院に擔ぎ込み應急手當を施したが今三十日午前二時半遂ひに絶命したと

磐城劍道會

十五日に總會

磐城劍道會では來る十五日午前十時から平商業學校に於て定例總會を開催するが赤白試合個人試合を行ふので一般愛劍者より大ひに期待されてゐると

平商工會講演

平町商工會では來る十五日聚樂館で一流の講師を招聘し講演會を開催すると

丸昌ホール 繁昌

連日の多忙

平町南町丸昌ホールは竣工以來各方面より輕便と簡易の故を以て非常に歡迎され洋式宴會、歡迎會、協議會等で多忙を極めてゐるが今三十日午後一時よりは小玉川電氣會社が木村代議士の歡迎會を開き更らに平郵便局では午後五時より局員送別會を開き更らに十二月二日は平魚市場の總會を同ホールで開く事となり年末期を控い忘年會他の新年宴會等で各方面に多く利用されることであろう

聚樂館に開かれる 家賃値下の一聲

敷金撤廢の皮切りに

組織的運動開始

平町地方に於ける家賃値下げ運動は各種の上に漸く具体化し相當根強い組織的の運動計劃を進められてゐる様で之れが實現の日は遠からぬものゝ様に觀られてゐるが平地方における家賃値下げの第一聲をあげた社會民衆黨支部では二十九日より二日間に亘つて平町の家賃調査をなしその結果家主は無利息で敷金を二ヶ月以上甚だしきは百五十圓二百圓と預かつてゐる家賃は正に六都市同様であるといふので同組合では何れも不當であるとなし來月早々平町聚樂館に家賃値下げ敷金撤廢の演說會を開き席上決議をなして戸別的に家主を訪問の上實現を計る由であるが一般から非常に注目されてゐる

木村代議士 歡迎會

八日聚樂館で

萬國商業會議に日本代表として列席過般無事歸朝した石城郡選出代議士木村清治氏は目下大浦村の自宅に於て休養中であるが郡内有志親友知己等發起となり同代議士歡迎會を來る八日午後一時から平町聚樂館に於て開催する事と決定した尙ほ當日は木村代議士の外遊中獨逸、フランスその他諸外國における視察談がある筈で盛會を豫想されてゐる會費は一圓で一般の參會を希望すると

平町火防視察

秋田縣横手消防組頭瀧敏夫氏一行は防火設備其の他火防に關する視察の爲め三十日平町に立寄り視察した

塵に悩む植田町

洪水毎に家内に入來

鮫川沿岸民陳情

石城郡植田町塵芥はもと裏及び町端等に放棄しつゝあつたが町當局は五百餘圓の補助金を以て燒却場を同町石塚に新設し馬車及び馬を購入請負はしめ、各戸より其塵芥量により一ヶ月一圓内外を集金し多年懸案の塵芥問題も一先づ解決を告たるも運搬の怠慢等より各戸に塵芥山積し約半年成らずして運搬料の集金も不可能となつたので燒却場を放棄し塵芥は鮫川鐵橋下凹地に投げ捨てるので山積しつゝあるが同凹地は鐵道、國道の中間にあるので夏季は國道往來臭氣鼻を襲ひ附近の人家の迷惑一方ならざるものさしてあつたが鮫川氾濫の折は山積の塵芥流出し國道附近の人家及植田町番所下に漂着し衛生上極めて危險であるが同道路附近の八家は去る二十六日の浸水にまたまた迷惑を蒙り近く同凹地の塵芥放棄反對陳情をすると

鮫川堰の 復活陳情

六縣議の案内

石城郡小名濱町外一町四ヶ村に亘り灌漑反別七百餘町の廣汎圍にわたる鮫川疏水の復活問題は地方民多年の懸案として例年の縣會に於て屢論議されて來たが未だに實現するに至らぬので二十九日縣會開會中を機とし水利組合委員飯塚榮一郎（小名濱）箕崎伊勢松（玉川）小林藏治の三氏等出參地元選出六縣議の案内で小柳知事、金森内務部長と面接縷々實現方陳情する所があつた

飲み料を 拂はず亂暴

四倉署取調中

四ッ倉町字仲町丹羽屋方大和田久吉氏の店先きに去る廿九日午後五時頃四十五、六才位の一見無頼漢体の男來りコップ酒四杯をあふり代價も支拂す立去る折店先の柿を二三個持ち去るので家人は驚き、酒代を請求す

亭主殺しは三年

熱湯事件の松本イクに

けふ平支部判決

双葉郡龍田村大字井出字立石松本イク（三四）が夫豐（四二）にあらぬ猜疑心から毆打され鬱憤の餘り去る九月三日の深更熟睡中の夫に茄子漬に使用せんとして作れる鹽水の熱湯を浴せかけたそれが原因で夫は同月十日遂に死亡した事件は去る二十八日平支部に於て千葉裁判長係の上公判開廷され三笠檢事係り千葉辯護人立會は論告の後懲役三ヶ年を求刑し千葉辯護人は情狀酌量の上特に寛大なる執行猶豫を望むと熱辯した旨既報したが今三十日午前十時檢事の求刑通り懲役三ヶ年に處す旨の判決あつたが控訴する由

磐新塔

平町地方も不景氣な年柄ではあるが市内商店のうちでは最早景品附大賣出をなすべく夫々警察署に願出たのもある、處で或洋品店の主人が「不景氣で大賣出しは花々しくやるがまあ三割五分内外の利益は擧が[illegible]と思ふ」三割五分儲けは暴利に近いやうじやないかと云へば洋品店の主人聲をひそめて「萬引されるものあるから一割位の利益はとつてしまふ……。萬引されたその損害は一般商品に轉嫁して貰らねばならん、それだから三割五分の利益を目標にせねば、商人は立行かん、本當になげかわしい世相になつたものだ、世の人々よ、萬引することなか、知足安分[illegible]先づ虚榮心を去ることが肝心だ、けれどもさうなれば商人は、あがつたりになるから世の中は矛盾してゐる」

文化講演會
簡易講習會
協議會
諸陳列會

として皆様の席場が出來ました自由に御利用願ます

皆様の
昌ホール
平町　電話四三九番

伊關呉服店の
御得意様慰安劇大會
△劇は御なじみの竹の子一行
△期日十二月一日より七日迄　一週間
△時間は毎日午後五時花火合圖開場
△同店へ御入來の御客様には
△特別無料券進呈仕ます
會場　聚樂館

內科、小兒科　市原卯太郎
外科一般、婦人科　市原隆郎
外科、梅毒、淋疾
皮膚病　市原三二男
平町田町本通
市原醫院
（入院隨時）　電話一一四番

一圓十錢のフランス
マルソー會社元詰
マルソー、ブランク
マルソー、ルージ　生葡萄酒
優良にして安價賣行き飛ぶが如し
平二　**西村屋藥舖**　三番

X光線
外科專門
入院隨意（[illegible]）
平町南町
上田外科醫院
電話一一九